

令和元年度 「特別支援」 専門部活動報告

<村山特別支援学校の実践について>

レポートタイトル 作業学習 高等部窯業班
「むらとくバザーに向けて」 ～バザーで新製品を売ろう～

1 実践にあたって

本校高等部では週9時間の作業学習を設定し、縫製班、木工班、農芸班、石けん班、窯業班の5班に分かれて製品づくりに取り組んでいる。

年間行事の中で「むらとくまつり」は生徒たちにとって特に力を入れて頑張りたいと思う行事であり、同日行われる「むらとくバザー」では日頃の作業学習の成果をアピールできる場となっている。バザーに向けお客様に喜ばれる製品を作れるように日頃から丁寧に製品づくりに取り組むこと、今までになかった製品も製作し、製品が売れる喜びや充実感につなげたいと考え、実践に取り組んできた。

2 活動より

窯業班に在籍する生徒の実態は幅広く、2グループに分かれ分業しながら作業に取り組んだ。

ある生徒はたたきだし（皿作り）に使用するため、粘土を平らに伸ばしたタタラを型に沿って切り出す作業を担当した。型に沿って切り出すほか、フリーハンドで○、△、□の形を切り出すため、その形を活かしブローチやペンダントにできないか生徒達に提案を行った。また今年度は多少深さのある小皿を作っている。小皿には本焼きの前、皿の中にカレットグラスを敷き詰め、焼成後ガラスの貫入が入る工夫を施すことにした。今回購入した信楽特コシ粘土とワラ灰マット釉、これまで使用してきた釉薬とを組み合わせながら、今までになかった新製品としてブローチやペンダント、ガラスを使用した貫入入りの小皿を製作することができた。

バザーに向けての準備では、検品作業の手順書をもとに生徒達は丁寧に検品を行った。当日はお客様への声掛け、会計、製品をお渡りする係などを分担してバザーを開催した。生徒たちは自分の役割に真剣に取り組み、バザーは大盛況で終了することができた。

3 まとめ

同じ作業の繰り返しにより作業の精度が増し、良い製品をバザーに出すことができた。また、これまでであった製品に加え新製品を製作したことにより、生徒達の作業意欲が向上した。バザーではたくさんのお客様から「すごい。」「きれいだね。」「この器がもっと欲しかった。」などの

言葉をいただいた。生徒達は「この器をもっと作らないと。」「いろんな色の皿があるといいね。」と振り返り、次回の校外バザーへ向けての作業意欲につなげている。今後も生徒たちの意見を取り入れつつ新製品の開発に積極的に取り組み、より良い製品を提供できるようにしていきたい。

<楯岡特別支援学校の実践について>

レポートタイトル 作業学習 高等部木工班
「たてとく祭での販売会に向けて」
～コツコツ丁寧に作ろう～

1 実践にあたって

本校高等部では、週9時間の作業学習を設定している。作業学習では、68名の生徒が木工班、陶工班、家庭班、クラフト班、園芸リサイクル班の5つの作業班に分かれて活動している。

本報告は木工班の活動を中心とした実践報告である。「たてとく祭での販売会」に向けて、どんなことに気を付けて制作したらよいかを考えさせながら質の高い製品作りを行い、販売会でお客様に買っていただく経験を通して、達成感をもつことができるのではないかと考えた。

2 活動より

木工班では、なべしき、和風小箱、和風ラック、燻製セット、ベンチなどを製作している。

販売会に向けて、お客様が製品を選ぶときに気にする「見栄え」や「触り心地」、「がたつき」などに目を向けさせ、それらを改善させるにはどうしたらよいかを生徒と話し合った。その結果、丁寧に作業を行うとよいことを全員で確認して作業を進めた。

販売会が近づくと、作業班長会を行い、販売会に向けてさらに意欲を高めるための「販売会がんばろう会」を企画した。高等部生を前に、作業班ごとに作ったポスターを掲示しながら、どんな製品を販売するのか、どんなことを目標に販売会に取り組むのかを各班長が発表した。

3 まとめ

この実践により、製品を使うお客様の気持ちを考えることができる生徒が増えてきたり、より良い製品を作るためには丁寧に作業しなければならないことを理解して作業を進めることができる生徒が増えたりした。販売会ではほとんどの製品が売れ、生徒が達成感をもつことができた。また、「販売会がんばろう会」では各班長のリーダー性を引き出すことができた。